



社団法人 日本病理学会
〒113-0033
東京都文京区本郷2-40-9
ニュー赤門ビル4F
TEL: 03-5684-6886
FAX: 03-5684-6936
E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第285号

平成23年(2011年)10月刊

1. 次期理事長選出の選挙について

学術評議員 各位

社団法人日本病理学会
選挙管理委員長 松原 修

平成24/25年度次期役員(理事・監事)選挙の結果を踏まえ、次期理事長を選挙により選出いたします。下記の要領により投票をお願いいたします。

記

○投票締切日:平成23年10月21日(金) 当日消印有効

○投票用紙には、被選挙人名簿の中から1名を記載ください。

所信表明(希望者のみ)をご参照ください。

なお、被選挙人の資格には、この所信表明の有無は問いません。

○記載された投票用紙は、内封筒に入れてください。

内封筒にはのり付けをしないよう、お願いいたします。

○外封筒には、投票者の所属、氏名および会員番号を明記してください。

この記名がない場合は、無効となりますのでご注意ください。

○封筒には投票用紙以外は同封しないでください。

○切手は貼らずにお出しくください。

(1) 被選挙人名簿(記載はABC順)

深 山 正 久(東京大学大学院医学系研究科)
伏 木 信 次(京都府立医科大学分子病態病理学)
笠 原 正 典(北海道大学医学研究科分子病理学)
加 藤 良 平(山梨大学医学部人体病理学講座)
黒 田 誠(藤田保健衛生大学病理診断科)
根 本 則 道(日本大学医学部病理学分野)
野 島 孝 之(金沢医科大学臨床病理学)
落 合 淳 志(国立がん研究センター東病院)
小 田 義 直(九州大学形態機能病理)
岡 田 保 典(慶應義塾大学医学部病理学教室)
笹 野 公 伸(東北大学病理診断/病理部)
白 石 泰 三(三重大学医学研究科腫瘍病理学)
高 橋 雅 英(名古屋大学医学系研究科分子病理)
上 田 真 喜 子(大阪市立大学医学部病理病態学)
八木橋 操 六(弘前大学大学院病態病理学講座)
山 口 朗(東京医科歯科大学口腔病理学分野)
安 井 弥(広島大学大学院分子病理学)

横 山 繁 生(大分大学医学部診断病理学)

吉 野 正(岡山大学大学院病理学)

(2) 次期理事長候補者所信表明(希望者のみ掲載:3名 ABC順, 氏名, 所属, 出身大学, 卒業年)

深山 正久(東京大学大学院医学系研究科, 東京大, 1978年)

病理学会員の皆様に心より訴え、推し進めたいことがあり、立候補いたしました。日本病理学会の最重要課題は「後継者のリクルート・育成」であり、これは学術評議員全員が心をひとつにして、着実に推し進めていかなければならない緊急課題です。以下、行動指針を示します。病理医の重要性についての広報(1, 3), 研究医・病理医育成(2, 5), 基盤整備(4, 6)の三本柱です。

1. 「医療における病理学」を実践し、病理医の重要性を国民に訴える: 広報の方策の一つとして、「病理専門研修への公的補助」を求める要望書を政府に提出します。がん対策推進基本計画見直しに当たり、病理医不足が取り上げられました。臨床研修におけるCPCの充実、診療関連死調査という場面でも、病理医が果たす役割が大いに期待されています。粘り強い活動を実を結んでいます。
2. 病理学を入り口とした研究医の育成: 文部科学省においても研究医の育成の重要性が認識されるようになっていきます。研究医を志す医師の養成課程に、病理研修を取り入れる施策を提案し、医学研究における病理学の重要性を積極的に訴えていきましょう。
3. 病理学の重要性を学生、研修医に伝える: 病理研修手帳の配布、研修登録システム構築により病理研修へのアクセスを高めます。各支部における夏の学校、学術総会における学生ポスターなど多くの取り組みが行われています。これらのために病理学会の学術医療振興基金の積極的活用を考えていきます。
4. 病理医の立場を強化する: 診療所での病理診断料の算定、保険医療機関としての病理診断料開業、病理診断料毎回算定など着実な成果を勝ちとっていくために行動します。一方、生涯教育委員会の設置などにより、病理専門医の生涯教育の充実を図ります。
5. 基礎生命科学与臨床医学の架け橋: 病理学を強化するため、研究者と病理医の交流の場を積極的に設けます。「病理医と研究医」をテーマとした市民公開講座を開催します。

6. 支部活動支援をはじめとした情報基盤整備：病理 IT ネットワーク作りを進め、支部活動支援を積極的に行うほか、教育環境の整備、病理診断精度向上、国際交流の促進を図ります。

病理診断と病理学研究、これらを両輪として前進させることが必要です。病理学会員の熱意と力をひとつにして、広い視野に立った病理学を前進させるため、皆様とともに進んでいきたいと存じます。是非とも、ご支援をお願い申し上げます。

黒田 誠（藤田保健衛生大学病理診断科，名古屋保健衛生大，1978年）

この度の役員選挙におきましては前回に引き続き多くの皆様からの多大なご支援をいただき厚くお礼申し上げますとともに、日本病理学会において私に与えられました責務・使命の大きさに身の引き締まる思いでございます。

私は、100周年を迎えた伝統ある日本病理学会が新たな一歩を踏み出すに当たり、このような多大なご支持をいただいた皆様のご期待にお答えすべく、このたびの理事長選挙に立候補する決意をいたしました。今さら申すまでもなく病理学においては研究と診断は車の両輪のような関係にあります。病理学の診療への責任が重くなって行く一方で、科学の急速な発展を背景として病理学研究への期待も大いに広がってきています。今後も日本病理学会において、「研究」と「診断」が密に連携して、その魅力を発揮できるシステムを構築して行く所存でございます。近年、会員への連絡などがペーパーレスとなり決定事項の会員への周知がより重要性を増し、皆様のご意向の把握、更には医学生への啓発などと幅の広い活動が支部でなされています。私は地方を大切に、支部活動の強化と、理事会との連携に努めたく存じます。また会員の皆様との学会内の議論を元に、そこで抽出された学会のみでは打開できない大きな課題を学会外へ積極的に情報発信してその解決に努めます。そのために対外的に関係の深い諸団体と交流を深め、所轄省庁への活動にも更に力を入れて、広い視野から、国民が日本病理学会に期待している様々な事項の実現に尽力したく存じます。積極的な、前向きな活発な議論をし、課題を解決しつつ前に進むことにより、「病理医不足」も解決して行くものと確信しております。今年は国民皆保険が実施されてから50周年を迎えます。国民の医療を支える柱として期待に応える学会にならうではありませんか。私の基本的なスタンスは現場の生の声に耳を傾け、その課題を抽出し、政策として現場にフィードバックする学会の体制を構築することにあります。

課題として、

1. 病理学の国民への周知・啓発
 2. 病理専門医の現場の環境改善・女性病理医の支援・そのための諸団体・省庁などとの折衝
 3. 病理学の科学・教育の充実
 4. 病理医倍増へ向けての緻密な活動 など
- 皆様のお力添えで進めて行く所存でございます。

これまでの経験を生かし、全力で取り組む覚悟でございます。日本病理学会の更なる発展に向けて、皆様のご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

上田真喜子（大阪市立大学医学部病理病態学，千葉大，1975年）

多くの先生方からの御支援の声に励まされて、この度、日本病理学会の理事長選への立候補を決意しました。私は、平成20年・21年度は理事および人材育成委員長として活動させていただき、平成22年度からは、常任理事および財務委員長として、青笹理事長のもと、地方からの病理学会の活性化を念頭に、多くの改革の実行に参画させていただきました。この改革路線を継続していくことは、100周年を経た伝統ある日本病理学会をさらに発展させていくためには、必須であります。特に、他学会に比較して高額である病理学会の会費（病理専門医部会費を含む）の値下げを実現するべく、私は財務委員長として全力で取り組んできましたが、そのためにはまず、一般会計が約6,000万円の大赤字をかかえて、剖検輯報会計や専門医部会会計の繰越金からの内部借受により運営しているという病理学会の財務の現状を健全化させることが急務です。すでに問題は把握しておりますので、それらの解決・改善に努め、2年間の任期中に会費の値下げ、および財務の健全化を必ず実現したいと存じます。そして今後は、病理学会の将来を担う若手病理医のリクルートや育成、生涯教育、病理診断精度向上、支部活動の充実、会員からの意見・要望を反映した新企画の実施などにこそ、より多くの財源をあてるような財務運営をするべきと考えます。

日本病理学会、さらには日本の医療において、病理診断業務の重要性は言うまでもありません。そのためにも、病理診断科/診断医の地位のさらなる向上、女性病理医が継続的に働くことができる勤務システムの確立、一人病理医をめぐる諸問題の解決、そして何よりも医学生や研修医に魅力を感じさせ、興味や期待を抱かせるような病理学イメージのあり方、などについて病理学会全体で取り組む必要があります。

病理学は病気の発生・進展メカニズムを追究する学問であり、日本病理学会としてはヒト疾患の病理・病態の解明を一層推進していく責務があります。この研究活動を基盤とした病理学教育の実践を通じて、病理学の魅力と重要性を学生や若手医師に伝えることが必要です。このことが、日本病理学会のさらなる活性化や発展に最も重要と確信しております。

皆様のご支援を賜われればありがたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2. 「診断病理」編集長の公募について

平成23年10月

社団法人 日本病理学会
理事長 青笹 克之

「診断病理」現編集長の任期満了にともない、平成24年

度以降の編集長を下記の要領により募集いたします。応募、または推薦の書面を病理学会事務局までお送り下さい。

応募要領

1. 応募は自薦，他薦を問わないこと。
2. 応募者は，病理専門医である日本病理学会会員であること。
3. 応募者が自薦の場合は，氏名，所属機関，応募の要旨を，また他薦の場合は，推薦する候補者を加えて，

記載した書面（書式は自由）を提出すること。

4. 任期は，平成24年4月1日より5年とすること。
再任以降の任期は2年とすること。
5. 締め切りは，平成23年11月10日（消印有効）とすること。

3. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

大嶋正人 学術評議員（平成23年10月5日ご逝去）

日本医学会だより

JAMS News

2011年10月 No.46
日本医学会

◆第28回日本医学会総会特別企画

第28回日本医学会総会は本年3月の東日本大震災の影響により開催形態の変更を余儀なくされたが、9月17日～18日、特別企画として東京国際展示場にて学術講演会が開催された。

放射線医療、震災後の地域社会と医療、医療と情報、「医の現在」から「医の未来」への4課題についてのシンポジウム他、記念講演2題、セミナー1題、講演20題が行われた。

◆第141回日本医学会シンポジウム

「がん分子標的治療の進歩」をテーマに、12月8日(木)13:00～17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、前原喜彦、野田哲生、田村和夫の各氏。郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて申込み受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月7日に開催し、平成23年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞23、奨励賞38を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・マウスモデルを用いた大腸がんの研究/武藤誠(京大・遺伝薬理学)
- ・わが国から胃癌を撲滅するための具体的戦略/浅香正博(北大・がん予防内科学)
- ・超高齢社会における新しい運動器学の構築とその病態解明、および先端的評価法・治療法の開発/中村耕三(国立障害者リハビリテーションセンター)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・膵β細胞の分泌準備分子機構の可視化解析：神経終末との対比/高橋倫子(東大疾患生命工学センター・構造生理学)
- ・新規生体分子イメージングによる慢性炎症を基盤とする生活習慣病病態の解明/西村 智(東大・循環器内科学)
- ・ヒト体細胞から直接ヒト心筋細胞を作成するリプログラミング技術の開発/家田真樹(慶大・循環器内科学)
- ・肺がん原因遺伝子EML4-ALKの発見と臨床応用/曾田 学(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・自然免疫系におけるウイルス認識機構に着目した新たな感染防御へのアプローチ/高岡晃教(北大遺制研・分子生体防御分野)
- ・筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価/丸山博文(広大原爆放医研・分子疫学)
- ・消化器癌幹細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用/石本崇

- 胤（熊本大・消化器外科学）
- ・通信情報技術を活用し構築した緑内障診療支援システムの課題と有用性の証明/柏木賢治（山梨大・地域医療学）
 - ・長寿・老化モデルマウスを用いた慢性炎症機構の解明/南野 徹（千葉大・循環病態医科学）
 - ・脳梗塞に対する血管保護療法の確立に関する研究/下畑享良（新潟大脳研・神経内科学）
 - ・消化器癌細胞全ゲノム解析による再発転移機構の解明/三森功士（九大別府病院・外科学）
 - ・凍結免疫療法を併用した新しい脊椎転移がん手術の開発/村上英樹（金沢大・機能再建学）
 - ・卵巣癌の分子生物学的特性を利用した新規治療法の開発/中山健太郎（島根大・産科婦人科学）
 - ・尿路結石の形成機序における環境要因と遺伝要因からみた病態解明/安井孝周（名市大・腎・泌尿器科学）
 - ・ヒトパピローマウイルスを指標とした原発不明癌頸部リンパ節転移の個別化治療/猪原秀典（阪大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

◆日本医学会法人化準備委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、本年度新設された委員会で、委員は富野康日己（委員長）、里見 進（副委員長）、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、福永慶隆、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。第1回委員会は9月13日（火）に開催された。

◆日本医学会分科会利益相反会議

「産学連携における医学研究とCOIマネージメントの在り方」をシンポジウムテーマとした第2回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月16日（水）13:00～16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ

（<http://jams.med.or.jp/>）にて、申し込まれたい。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「国際的なCOIマネージメントの現状と動向」(J. Patrick Barron 東京医科大学国際医学情報学主任教授)、「医科系大学におけるCOIマネージメントの現状と問題点」(玉木俊晃国立大学医学部長会議研究倫理に関する小委員会委員長)、「学会におけるCOIマネージメントの現状と問題点」(高後 裕 旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授)、「製薬企業におけるCOIマネージメントへの取り組み」(花輪正明日本製薬工業協会医薬品評価委員会副委員長)、「医学研究における産学連携と国民の理解」浅井文和（朝日新聞社編集委員）のそれぞれの講演が行われる予定。

◆移植関係学会合同委員会

第30回移植関係学会合同委員会が平成23年9月6日、厚生労働省で開催された。

小腸移植実施施設については、旭川医科大学病院、自治医科大学附属病院、国立成育医療研究センター、熊本大学医学部附属病院の4施設が追加認定された。

肝臓移植実施施設については、岩手医科大学附属病院が追加認定された。

心肺同時移植実施施設については、東北大学病院が追加認定された。

腎臓移植のレシピエント登録は、「透析導入後またはそれに準ずる者」とされてきたが、透析導入前の腎不全患者にも適応を拡大することとした。

肝臓移植レシピエント適応基準については、「劇症肝炎」「肝移植後肝不全」および「非代償性肝硬変」の重傷度の評価基準などを変更した。

心臓移植レシピエント適応基準では、「60歳未満が望ましい」となっていたが、「65歳未満が望ましい」へ変更することが発議され、臓器移植委員会における、心臓移植希望者選択基準に係る検討の結果を踏まえて、施行されることとなった。